

今年度このページを担当するスタッフの大好きなお仕事をご紹介します♪

モンテッソーリのお仕事のお手伝いをさせていただいている河野佳子です。本年度もよろしくお願ひいたします。

私の好きなモンテッソーリの「日常生活の練習」の活動の中に「色水注ぎ」というお仕事があります。ガラスの水差しに入った綺麗な色のついた水をコップに注ぐお仕事です。コップには量線がついており、その線にぴったりになるまで注ぐというものです。ただ注ぐのではなく、量線を超えないという約束がありますので、集中し、手と目を協応させる必要があります。正確な筋肉の動きや指先・手首の機能の発達を促す活動の一つです。本物のガラスを使い、色のついた水など、子ども達を惹きつける教具ですので、繰り返し活動する様子が見られます。時々色水の色を変えたりして、子ども達に誘い掛ける工夫もします。

昔初めてモンテッソーリ園を訪ねたときに、お部屋の中にこの教具を見つけ、娘が何度も繰り返した思い出深いお仕事でもあります。

(河野 佳子)

色水注ぎ
(日常生活の練習)



子ども達も大好きなお仕事の一つで、活動中もお友達とペアになって楽しそうに取り組んでいる姿をよく目にします。感覚器官である「触覚」の発達を目的とした教具で、大きさ、色、素材など全く同じ巾着袋二つの中に、それぞれ子どもの興味を惹くような魅力的な立体小物が8～10種ほど対になって入っています。例えば、貝殻、クルミ、こま、財布、ビー玉、鍵など、全てが本物で子どもの手のひらに収まるサイズです。一つずつ自分の袋を持ち、「中身を見ない」というお約束の元、先に相手を取り出した小物と同じ物を、手探りで見つけ出すという活動を、交互に繰り返します。相手を取り出す時に見せてくれる「次はなにかな」と期待に満ちた輝くようなまなざしと、自分の番に手探りをする時の真剣なまなざし。子ども達が目まぐるしいほどに見せてくれるさまざまな表情によって、その喜びを間近で共有でき、幸せな気持ちにさせてくれるこの活動は、私も大好きなお仕事です。

(濱岡 麻紀)

ひみつ袋
(感覚教育)



私が好きなお仕事は、日常生活の分野の「縫いさし」です。始めに、画用紙に描かれている点を目打ちでさし、穴をあけます。次に糸を切ります。糸はちょうどいい長さになるように机の手前部分の端から端へ伸ばし、切ります。このお仕事の難しい点は針に糸を通すところで教師を呼びに来る子どももいれば、自分で考え糸をなめたり、セロテープを付けて糸の先を細くして、工夫する子どももいます。途中で縫う方向を間違えると、糸が絡まったり、無理に引っ張ろうとして画用紙がぐちゃぐちゃになり、子どもは困ったな、という表情をしますが、糸を切ってやり直していき、完成すると嬉しそうに友達に見せたり教師に見せに来ます。この教具のポイントは子どもが本物の針を実際に使う点です。日常生活の中でお母さんが洋服にボタンを付けているのを見ているかもしれない子ども達にとって、自分にも出来るんだ、という自信につながっていきます。(齋藤 香里)

ぬいさし
(日常生活の練習)



赤バッチが全力で取り組むお仕事

子ども達がお仕事をする時、椅子に座って机で取り組むことの他に、活動内容によっては、床にじゅうたんを敷いて取り組むことも多々あります。子ども達は教室にあるいつもの決まった場所から、きれいに巻いた状態のじゅうたんを運び、好きな場所に広げます。この時じつに気品ある丁寧な方法で行います。幅 60 cm 程のじゅうたんの両端に手を添え、自分の体を後ろに移動させながら、少しずつ手首を回してじゅうたんをのばすように敷いていきます。次に巻く時は、向こう端を手前に返しながら毛並みが表になるように巻いていきます。ここで行う手首の運動は、後に文字を書く時に必要とする調節機能を養うことにもつながります。新年度が始まったこの時期、特に赤バッチの子ども達が一生懸命に全身を使い、丁寧に巻きのばしをしようとする光景を目にします。(M, H)

じゅうたんの巻きのばし
(日常生活の練習)



黄バッチのあこがれのお仕事

赤バッチの時に、1 から 10 までの数の量とシンボル（数字）をいろいろな教具を使って活動してきた子ども達が、黄バッチになり次に取り組むのが、1, 10, 100, 1000 という十進法の活動です。10 までの数を知った後、次に 11. 12... と進むのが自然ですが、モンテッソーリ教育では、1 が 10 集まると 10、10 が 10 集まると 100、100 が 10 集まると 1000 という、子ども達にとって捉えやすい大きい違いの数から紹介します。最初はビーズを使って紹介します。1 粒が 1 のビーズ、10 のビーズは 1 が 10 個繋がった棒状のビーズ、100 のビーズは 10 の棒が 10 個繋がった平方板のビーズ、1000 は 100 の板が 10 個まとめた立方体のビーズです。形状が異なるので、感覚的にその違いを捉えやすく、実際手で形や重さ＝量を感じながら、どの位も 10 集まると次の位になるということを経験します。このあと、カードの紹介、銀行あそび（ビーズとカードによる加法等）に進んで行くための入口となる魅力的なお仕事です。(Y, K)

ビーズの紹介
(数教育)



青バッチが一生懸命取り組むお仕事

これは、花の水替えのお仕事です。まず花を洗い桶に入れ、茎を指でこすり、ぬめりを取ります。次にピンブラシで花瓶の中をこすり、水を替えます。そして先生が空気が入らないように水の中で茎を切るというポイントを説明しながら、水切りをします。その後、虫眼鏡で茎の断面を観察します。最後に切った茎を集め、袋に包んで捨て、使った用具を片付けます。このお仕事の魅力は一人で植物（生き物）のお世話をすることで、実際、花の水替えに取り組む中、「お花のお世話をするの、楽しい」と言う子どもの姿が良く見られます。その他花瓶の水を替え、お花を挿す時、どのようにすればバランスが良くなるか、考えながら飾っていく姿も見られます。茎をこする時やピンブラシを持つ時、スポンジや、小布で用具を拭く時の手の動きは、3 本指で持つ鉛筆の持ち方の練習につながっていき、なめらかできれいな字を書くという目標へ向かっていきます。(K, S)

花の水替え
(日常生活の練習)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありベースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが繰り返し活動したお仕事

これは「掃く」というお仕事で、子ども達が繰り返し行うお仕事の一つです。まず始めに1つ1つ、お仕事で使う物の名前を確認します。その後、紙くずを集める為の円を床にチョークで書き、書いた円の周りに紙くずを散らします。子ども達はほうきを使い、円の中に紙くずを丁寧に集めていきます。紙くずが全て集まるとちりとりで紙くずを取り、ごみ箱に捨てます。最後は濡れたスポンジで円を消し、お片付けとなります。

このお仕事は“環境への配慮”が目的とされており、日々の生活とも繋がっています。活動後や食後などでお部屋の掃除をする時に、自ら汚れに気付き、ほうきとちりとりを手にし、お手伝いをします。「掃く」活動を繰り返すことで、自分の出来ることに自信をもち取り組んでいます。(H. I)

掃く
(日常生活の練習)



黄バッチが楽しんで取り組んだお仕事

ひらがなを五十音順に並べるお仕事を繰り返した子どもが、次に取り組むのが「移動五十音」というお仕事です。言葉を話し言葉ではなく、文字で書いて表す活動に進むのに、このお仕事は大きな助けになります。まだ鉛筆で文字を書くことができない子ども達は、例えば、「くま」という動物の名前を文字で表すのに、この教具を使います。仕切りのある木箱の中に、ひらがなが書かれた透明のプラ板が各文字7, 8枚ずつ五十音順に入っています。その箱から「く」、「ま」、などの文字を選び、組み合わせ、絨毯の上に並べます。このことを先生は言葉を「作る」のではなく「書く」といいます。たくさんの言葉をプラ板を使って自分で「書く」ことで、実際に鉛筆で「書く」ための準備をしているのです。文字を思い通りに移動し、操ることができる楽しい教具で、子ども達の言語活動を豊かに広げていくのです。(Y. K)

移動五十音
(言語教育)



青バッチのあこがれのお仕事

銀行あそびなど、数の活動で度々手にしていた立方体の1000のビーズを「本当に1000個あるかどうか今度は実際に数えてみる」という活動です。立方体にあるビーズを、一粒一粒「一本線」に並べていきます。実際には1のビーズが10個単位にまとめられた10のビーズを、くさり状に100個つなげた教具で行います。一本の線に並んだビーズを目にした子ども達は「1000ってこんなに長いんだ」と感覚的に実感し、数える意欲を増していきます。大人からは困難にも思えますが、すでに知っている「1～9」の繰り返しの応用なので、数えることを楽しむうちに集中し、どんどん自分の世界に入り夢中になります。「数える」という単純な活動は子ども達の心に安らぎを与え、最後の1000まで数え終えたときには「大きなことを成し遂げた」というこの上ない喜びを静かに実感します。(M. H)

1000のくさり
(数教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

色板Ⅰの箱には、赤、黄、青の3原色のきれいな糸が巻かれた板が一対ずつ入っています。箱から1枚ずつ取り出すのですが、その時のお約束は、板の部分を持って取り出すこと。子ども達は、丁寧に板の部分を持ち、机の上にバラバラに並べていきます。この持ち方は、指先の洗練にもつながります。並べ終わると、同じ色を探して対にし、色々な角度から見てみます。するとどうでしょう。光が当たり、キラキラと輝いて見えるのです！お部屋でも、色板をじーっと見つめている姿をよく見ます。この美しい色板は、子ども達の色彩感覚の発達を助けたり、美的感覚を養います。また、「あか」「きいろ」「あお」などの色の名称を覚えたり、身の回りで同じ色のものを探したりと、様々な活動へと展開していきます。子ども達の色の世界がぐっと広がっていきますね。

(Y. S)

色板Ⅰ
(感覚教育)



黄バッチが楽しみながら取り組んだお仕事

これは、スポンジを使うお仕事です。まず、スポイトで色水を机の上に垂らします。次に濡らしたスポンジで、左から、右へ拭いていきます。最後に小布で円を描くようにくるくる仕上げ拭きをします。このお仕事のポイントは色水を垂らすところで、子ども達は真剣な顔でスポイトで出す色水の量を調整していきます。また、スポンジを使うお仕事の中で一番重要な動きはスポンジを絞る時の手の動きです。前段階でスポンジを絞るお仕事がありますが、スポンジをねじらず、両手で上から絞る作業は子ども達にとって難しい様です。最後に、使った洗い桶とピッチャー、バケツをスポンジと小布で拭きます。お片付けが長いお仕事ですが、どの子どもも黙々と行き、「もう一回やっていい？」と先生のところに言いに来るほど人気です。

(K. S)

スポンジを使う
(日常生活の練習)



青バッチが楽しんでするお仕事

世界地図づくりなどの活動に積極的に取り組んでいる青バッチは、活動を通して、地図上にある様々な地形に触れています。半島や湾、島や湖、海峡や地峡などの地形です。その地形の特徴をまず「絵合わせカード」を使い、目で良く見て確認します。そして「湖は水が土で囲まれている場所」、「島は土(陸)が水(海)に囲まれている場所」といった説明が書かれた小さい本を読んだりしながら、言葉を使って理解を深めます。活動の中で、地球儀や地図の中にそうした形を探したり、「日本は島だね！」と見つけ出したりするのです。その後、画用紙を使って、地形を切り取って紙に貼り付け、説明をつける本づくりをする活動なども、やりたいという子ども達には紹介していきます。

(Y. K)

対照地形とカード
(文化教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

数の棒と呼ばれる、数教育のプログラムの10本の棒です。

10センチごとに赤と青に色分けされていて、一番短い10センチの赤い棒が“1”を表しています。“2”は、赤と青、“3”は、赤・青・赤…というように交互に塗られています。10本の棒は、連続した量と増えていくことでの違いを視覚的に見せてくれます。棒の色に合わせて手を置いて数を数えていきます。初めは、3まで。3まで覚えられたら1本たして…と、段々と増やしていきながら覚えていきます。何度も繰り返し数えていくうちに、1から10までの数の順番を覚えたり、その数の量を正しく知ることが出来ます。順番の違いは、棒の長さを見て気付き、自分で直すことが出来ます。

この教具で数の量を知った後は、数字の書き方を覚え、数字と量を合わせる活動を繰り返し行い、やがて十進法に進んでいきます。(M, A)

数の棒
(数教育)



黄色バッチが集中して取り組んだお仕事

これは、葉のたんすとカードのお仕事です。教具は、3段の引き出しのついた小さいたんすで、どの引き出しにも葉のはめ込み図形と枠が入っています。図形は全部で15種類で、円形、三角形、せんじょう、とうらん形、しんぞう形、へらじょう、やりじょう、とうだいうじょう形、らん形、とうしんぞう形、楕円形、ほこ形、はりじょう、やりさき形、じんぞう形です。その他、はめ込み図形と同じ形をした図形カードがあります。まず、はめ込み図形を左手で持ち、芯のないオレンジ棒で図形をなぞります。次にその図形が入っていた枠をなぞります。最後に図形を枠に戻し、葉の図形の縁を、人差し指と中指でなぞります。3段全てのたんすの葉をなぞり終わったら、図形を同じ葉の形をしたカードの上に置く作業をします。このお仕事を通して子ども達は、公園などで拾ってくる葉には色々な形があることを知ると同時に、オレンジ棒を握ってなぞることによって、よりしっかりと鉛筆持ちが出来るようになり、なめらかで、きれいな字が書けるようになります。

(K, S)

葉のたんすとカード
(感覚教育)



青バッチが夢中で取り組むお仕事

3月のおたよりで紹介しました「ピースとカードによる加法(銀行あそび)」では、手足を使い身体全体で体験し繰り返すことで、十進法の概念を感覚的に得ることが出来ました。絨毯で一緒に活動してきた子ども達は、今度は一人で机に取り組む「切手あそび」の活動へと移行します。まずは重要とされる切手の紹介と数づくりの活動からです。縦横2cm平方の切手は、1から1000の位までそれぞれ緑、青、赤、緑の色で種類分けされ、更に1、10、100、1000と印字されています。これまでのピースやカードと対比して、どの切手も同じ大きさでありながら色や数字の違いで位取りができることを知ります。今度は、実際に位ごとに切手を縦に並べてみます。例えば「50」の場合は10と印字された青色の切手を5つ並べます。次第に4ケタの数字も並べることが出来るようになると、子どもは自分の世界の中で夢中になって取り組みます。

(M, H)

切手あそび(紹介と数づくり)
(数教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組んだお仕事

ブラシを使って、テーブルをきれいに石鹸で洗うというモンテッソーリ活動の基礎となる日常生活の練習のお仕事の一つです。

クレヨンで汚れが描かれた机を、石鹸の泡とともにブラシで弧を描きながらゴシゴシこすっていきます。どんなお子さんも、このブラシの動きと泡が大好き！！真剣に、つるつるピカピカにテーブルを磨き上げてくれます。泡もスポンジでしっかり拭き取り、最後は台拭きで仕上げ拭きを行います。道具もスポンジと台拭きを使ってしっかりときれいに、最後は次の人のために手拭きと台拭きを交換し、エプロンを畳んで棚に戻すところまでがお仕事になります。

この過程で、子どもは楽しみながら自分自身の体を意識的に使う練習をしています。また、誰かに言われるのではなく、汚れが落ちていないことで自分で間違いに気付くことが出来ます。子どもの中で様々な変化を呼び覚ます人気のお仕事です♪
(T. M)

ブラシを使う
(日常生活の練習)



黄色バッチが集中して取り組んだお仕事

これは、音感ベルのお仕事です。使う教具は、音感ベル、打棒、音響止めです。まず、茶色の音感ベルの銀色の部分を、鉛筆を持つような形で握った打棒を使って、手前から奥へ打ち音を出します。そして耳に近づけて音を聴き、左手で持った音響止めで音の響きを止めます。(音響止めはなめらかな木で一方の端がフェルトで巻いてあります。)次にドレミファソラシドの中のドミソの音感ベルを使って音を出し、音の違いを聴き分けます。慣れてきたら、ドミソドと音を増やしていきます。第二段階では、白い音感ベルを使います。白いドミソの中の低いドのベルを鳴らし、茶色のベルのドミソの中から同じ音のものを探す作業をします。この作業も慣れてきたら一音ずつ増やしていきます。このお仕事に取り組む子ども達は、初めは強く鳴らしてしまいが程なく丁度良い音量でベルを鳴らそうとする姿が見られます。青バッチになると黒い派生音の音感ベル(鍵盤の黒い部分の音)を使ったり、音を出してハミングしたり、曲を弾くこともします。
(K. S)

音感ベル
(感覚教育)



青バッチが「言葉」を楽しむお仕事

言葉を読んだり書いたりする活動を楽しんでいる青バッチの姿が見られます。この時期紹介する活動の一つに「封筒パズル」というお仕事があります。言葉には、読むときの発音と書くときの表記が違う言葉があります。例えば、「すもう」という言葉、書くと「すもう」ですが、読むと「すもお」です。「う」と書いて「お」と読む言葉。他にも「おじいさん」は「い」と書いて「二」とのびします。また、「とけい」は「とけい」と書いて「とけえ」と読みます。こうした言葉が書かれたカードがたくさん入った封筒を準備します。子ども達は1枚ずつカードを読んで発音しながら分類していきます。「すいとう」「びいだま」「ていでん」・・・などなど。活動の中で知らない言葉に出会ったり、不規則な読み方を覚えたりすることで、より進んだ言語活動への歩みを進めてゆくのですね。
(Y. K)

封筒パズル
(言語教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが繰り返し取り組むお仕事

感覚教育の中の代表的な教具の1つに、「はめこみ円柱」というお仕事があります。この教具は、つまみのついた10個の円柱が、ぴったりと収まる10個の穴があいていて、木製で出来ています。全部で4種類あり、高さが同じで直径が変化するもの、直径が同じで高さが変化するもの、高さも直径も変化するものが2種類、あります。この「はめこみ円柱」の活動は、10個の円柱を順々に抜き出し、その後ゆっくり元のあった穴に戻すという活動です。とてもシンプルな活動ではありますが、子ども達が大好きなお仕事です。子ども達は円柱と穴を何度も見比べながら深く集中した様子で取り組みます。繰り返し行い、だんだんと円柱のわずかな変化にも気づくようになります。この活動を通して子ども達は、高い低い・太い細い・大きい小さい・深い浅い、などを見分ける目を磨いていきます。

(H. I)

はめこみ円柱

(感覚教育)



黄色バッチが興味津々のお仕事

日常生活の練習の中に「靴を磨く」というお仕事があります。お出掛けするときに時々履く革靴。園のお部屋にはそれを磨く練習のために子どもサイズの本革靴が置いてあります。まず、紙の上で、靴についた埃を「埃を払うブラシ」を使って落とします。次に自分で靴クリームを付けます。それを「クリームをつけてのばすブラシ」でくるくると広げていきます。そして「靴をピカピカにするブラシ」で艶を出し、仕上げに「もっとピカピカにするパフ」で磨き上げます。それぞれのブラシや道具の役割を知り、使い分け、順序良く仕事を進めます。子ども達は無心に作業に集中した後、ピカピカになった靴を見て嬉しそうにしています。身繕いが大切であることも、活動を通じて子どもに伝えていきます。

(Y. K)

靴を磨く

(日常生活の練習)



青バッチが大好きなお仕事

9月号では切手あそびの紹介と数づくりについてご紹介しました。今回は、いよいよ実際に4桁の数字で構成された式から答えを導いていく活動です。最初はたしざんから行っていきます。用意された問題集を見ながら、問題の数字に値する切手を上段と下段にそれぞれ並べます。まるでひっ算の式の形を机上に表現したかのようにも見えます。例えば「1234+5432」の場合、上段に1234を作ります。その時、1の切手を4枚、10の切手を3枚…と位ごとに縦列に並べていきます。同様に下段には5432に値する切手を並べ、全体の式を完成させます。そうして1の位から答えを導いていきますが、ここからが子ども達の大好きな場面です。下段に並んだ2枚の切手すべてを、一度に上段の4枚にゆっくりとスライドさせながら移動し、一つの列にしていきます。そうして、長くなった切手の列を数えて「おこたえは6」だと分かった時、真剣だった子ども達の表情は一気にパッと明るくなるのです。

(M. H)

切手あそび (たしざん)

(数教育)



*保護者の方に“お仕事”をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようお願いいたします。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

鉄製はめこみは、中央につまみのついた台形・花十字形などの10種類の図形と、その枠を使った、子ども達が色鉛筆（筆記具）を用いて『書く』はじめての活動です。赤バッチでは、3つの基本図形（円・正三角形・正方形）から始めます。まず、枠を紙の上で形に沿ってゆっくりと書きます。枠がとれたら、2色目の色鉛筆で外側をゆっくりなぞっていきます。はじめは弱々しかった線も、図形をなぞるうちに力強くなっていき、さらに柔らかい手首も作られていきます。そうして「書く為の手」が作られていき、字を書くための準備となるのです。また複数の形や線を用いた、左右対称性で芸術的なお見本に刺激され、赤バッチだけでなく黄色・青バッチにも人気のお仕事です。（E. K）

鉄製はめこみ

（言語教育）

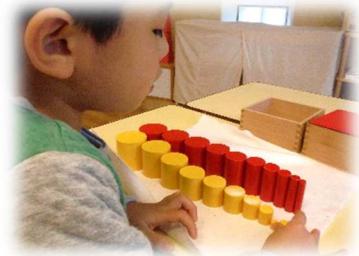


黄バッチが夢中で取り組むお仕事

「色つき」の名前の通り、黄色、赤、緑、青で構成された円柱は、光沢のある鮮やかな美しい色で、それぞれ10個ずつ揃えられています。それらは直径または高さに違いがあり、同形同色は存在しません。例えば、黄色は直径も高さも違う3次元で構成されています。子どもはまず、黄色い箱から10個の円柱をランダムに出すと、持ち前の観察力で、一番高くて直径の大きい円柱を選びます。次に、残りの中から、今度は次に高くて直径の大きい円柱を隣に置いていきます。最後の10個目を終えて、横に並んだ円柱を見た子どもは、高さがだんだん低くなり更に直径も小さくなっていることに気づきます。活動の展開として、塔のように積んだり、2色や3色でも活動していきます。全神経を使いながら、夢中で並べた後の子どもの表情は、円柱のもつ次元の違いの美しさと達成感で喜び一杯になります。（M. H）

色つき円柱

（感覚教育）



青バッチが楽しみながら活動するお仕事

これは幾何図形重ねというお仕事です。教具は3つの仕切りに分かれた箱の中に入っている正方形と、円と正三角形の図形です。それぞれ10枚ずつ入っていて1cmから10cmの漸次性があります。どの形にも赤、青、黄色の3色あります。まず、正方形の中から好きな色を選び、10cmから1cmにかけて隙間のないよう縦1列に図形を並べます。今度は、他の色の正方形を使い、10cm、9cm、8cm・・・と図形を上重ねていきます。最後に、角と角を合わせていく作業もします。円や正三角形の図形も同様に行います。このお仕事のポイントは、子どもに少なくとも図形のどこか1箇所だけはつなげるのだと伝えることです。こうすることで、子ども自身が好きなように形を作りだします。幾何図形重ねのお仕事を通して子ども達は、図形の寸法の正確さと漸次性の面白さを知っていきます。（K. S）

幾何図形重ね

（感覚教育）



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違います。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

子ども達は色々な物によく触って確かめることが大好きです。自分が知らないものに出会うとどんなものなのか、自分の感覚を使って探っているのですね。そんな子ども達の触感覚を刺激するお仕事が「触覚板」です。4種類の長方形の板はそれぞれに特徴があります。1枚目はすべすべした触り心地の板の半分に、ザラザラした紙が貼られています。2枚目の板はザラザラ、すべすべ、ザラザラ…と交互に縞状になっています。そして3、4枚目は5種類の粗さの紙が貼られていて一方は右から左へ段々ザラザラに、一方は段々すべすべになっています。これらの板を指先で軽く触れることで筋肉運動の調節を行っています。また指先で触り違いを楽しんでいるうちに、自然と子ども達の触感覚は洗練されていくのです。(M. A)

触覚板
(感覚教育)



黄色バッチが楽しみながら取り組むお仕事

これは、小さいかご1というお仕事です。使う教具は、小さいかごに入っている名前カードと筆記用具、絨毯です。名前カードには、環境の中にある物が書かれています。まず、名前カードに書かれた文字を読み、物を持ってきます。例えば、「バケツ」と書かれていれば、室内にあるお仕事で使うバケツを持ってきて絨毯に置きます。このお仕事のポイントは、文字を読んで、その文字と物を一致させることです。読んだ文字を記憶し、部屋にある物を持ってくる作業は、子ども達にとってとても楽しいようです。「小さいかご1」の次に「小さいかご2」というお仕事がありますが、主な違いは、小さいかご1では持って来られるものがカードに書かれていて、小さいかご2では持って来られないものが書かれている点です。小さいかご1のお仕事を何回か行った後では、先生が紙に書いたものを子どもが持ってきたり、子ども自身が持って来るものを紙に書く作業もしていきます。(K. S)

小さいかご1
(言語教育)



青バッチが取り組む根気のいるお仕事

以前、切手あそびをご紹介しました。子ども達は切手という木片を使い、大きい数の足し算を経験してきました。点あそびはその延長の足し算の活動です。例えば、 $2469+1939+4605+5315+\dots$ というように、大きい数をいくつも足します。小さい子どもにとっては難しいように思えますが、方眼紙に点を打って数えることで答えを出すことができます。方眼紙の欄は位毎に右から1,10,100,1000,10000に分かれ、横10、縦25の柵目です。2,469なら1の位の柵目に9個、10の位に6個、100の位に4個、1000の位に2個、次に4605も同様に点を打っていき、全ての数の点を入れます。最後に位毎に点を合計しますが、10個の点は次の位の1として繰り上げ、答えを出します。長い作業ですが、注意深く点を打ち答えを出すこの活動に子ども達は集中して入り込んでいきます。(Y. K)

点あそび
(数教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの「自己選択」の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらうようお願いいたします。

赤バッチが楽しみながら取り組むお仕事

これは、1つずつ数えて玉を置く「数字と玉」というお仕事です。赤バッチは、何でも数を数えるのが大好き！今日はお友達何人いるかな～？と聞くと真っ先に声に出して「1～2～3～…」と数えます。そんな赤バッチがたのしみながら取り組むお仕事は、数字と玉です。このお仕事は、絨毯に数字の1～10まで並べます。玉の数字を1の下に置き、2も同様に行いますが、玉を数字の下に置くときは玉と玉を横に並べ、間に隙間をあけて置き、奇数は最後の1つを中心に置きます。並んだ玉を見て、1番下に1が付いていないのが偶数、1が付いているのが奇数、これを「通る」「通らない」と言います。全て行ったら、「通るのはどれですか？」「通らないのはどれですか？」「5は通りますか？」と繰り返し質問して、奇数・偶数の印象を強めていきます。これは1つ1つの単位がどれだけ集まって、ある数を作るか。また割り切れる数を知る準備にもなります。（R, K）

数字と玉
(数教育)



黄色バッチが楽しみながら取り組むお仕事

これは小さいかご3というお仕事です。以前、紹介した小さいかご1、2で、子ども達は環境の中には持ってこられるものの言葉と、持ってこられないものの言葉があることを知りましたが、今回は動作を表す言葉もあることを学びます。教具は小さいかごに入っている8枚くらいの赤い紙です。紙には分かりやすい動作が書かれてあり、折りたたまれています。まず、子どもがかごの中から一枚の赤い紙を引き、声には出さず、文字を読みます。次に書かれていた動作を行います。そして「私のカードは〇〇でした」と言います。歩く、泣く、引く、飛ぶ、しゃがむ、踊る、隠れる、回る、寝る、歌うなどが一動作として挙げられますが、表現の仕方は何通りもあります。例えば、寝る動作を両手の平を合わせた形を耳にあてて表現する子どももいれば床に大の字に横になって表現する子どももいます。どの子どもも楽しみながら文字を読み、一つ一つの動作を面白がりながら行います。（K, S）

小さいかご3～赤いかご～
(言語教育)



青バッチが三角形の組み合わせでいろいろな図形をつくるお仕事

構成三角形6～星づくり～
(感覚教育)

「構成三角形」のお仕事では、いろいろな種類の三角形を合わせることで四角形や多角形などのいろいろな図形ができることを経験します。6パターンの活動があり、最後の6番目の活動では、直角不等辺三角形数枚でできる形を、形を組み合わせながら作っていきます。例えば2枚でできる形は、長方形、平行四辺形、三角形2種類、菱形に近い四辺形です。組み合わせる辺により様々な形ができて、等価・等積を感覚的に把握します。また、箱には全部で12枚の直角不等辺三角形が入っていますので、4枚で4つの直角を集め、6枚で6つの60度の角を集め、12枚で12の30度の角を集めて星の形を作る楽しい活動に進んでいきます。（Y, K）



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。

赤バッチが集中して取り組むお仕事

子ども達は「ことば」を覚えるのが大好きです。興味を持つ教材の中に絵合わせカードがあります。絵合わせカードは、正方形の画用紙2枚に同じ絵のついている物が6～7組あり、同じ絵カードの一方にはその物の名前が書かれており、もう一方には名前がついていません。そのかわり名前だけが記されている小さなカードがついています。初めは同じ絵と絵、2枚のカードを合わせる事から始めます。そのうちカードについている字と、字の書いてある小さなカードも合わせます。「字」を形としてとらえている段階の子ども達は、この工程を何度も繰り返して、楽しみます。その後「字が読みたい」という気持ちに変わっていきます。その時に、子ども達と一緒にカードを読むと、目がキラキラし興味津々です。難しいことばも難なく覚えてしまいます。絵合わせカードには様々な種類があります。興味のあるものを自分で選択できるのも、魅力の一つです。(M. A)

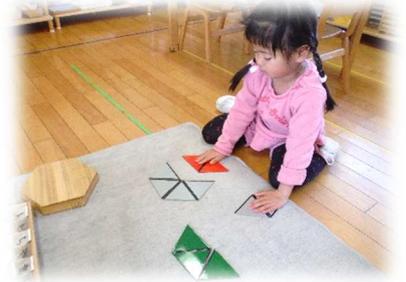
絵合わせカード
(言語教育)



黄色バッチが幾何図形の組合せを楽しむお仕事

正三角形を組み合わせながら、六角形に含まれている図形を探す楽しいお仕事がこの「小さい六角形の箱」です。木箱の中に、同じ大きさの2枚の赤い正三角形と3枚の緑の正三角形、6枚の灰色の正三角形が入っています。各正三角形には辺に黒い線がついていますので、黒い線が引いてある辺を合わせることで、菱形、台形、正六角形といった図形を作ることができます。出来上がった灰色6枚の正三角形を組み合わせた正六角形を指し、「この正六角形の中に台形はある？」と子ども達に尋ねます。正六角形を2つに分けてその形を見つけ出した子ども達に、続いて「この正六角形の中に台形はいくつある？」と尋ねます。「二つ」という答えが返ってきたら、「台形がいくつで正六角形になるの?」、「二つ」と、このようなやりとりを繰り返します。同様に正六角形の中に菱形が3つ、菱形が3つで正六角形となる発見を待ちます。こうした感覚教具の活動を通じ、数教育への準備も少しずつできていきます。(Y. K)

小さい六角形の箱
～構成三角形5～
(感覚教育)



青バッチが夢中で取り組むお仕事

6月号で紹介した「1000のくさり」の活動で、達成感を得た子ども達は、今度は実際に形に残していく活動に入っていきます。私達はそれを「巻き数字」と呼んでいます。高さ15cmの空き箱の上部2か所に、対になるようにやや深い凹みを作るように切り取ります。そして、適度な長さの棒を、物干し竿のように凹み部分に掛け置きます。これで準備は整いました。子ども達はこの作る過程も喜々としています。次に、縦10マス、横4マス(つまり4桁)の長細い紙を用意し、棒に巻き付ける要領でのり付けします。上から順に「1, 2, 3…」と書いていき、最後のマスで10と書き終わると、2枚目をのり付けし「11, 12, 13…」と続けていきます。そうして夢中で書いていくうちに長くなった紙は、指で棒を回すことで巻きつけられます。この繰り返しで次第に大きな巻物が出来ていきます。1000を超えて2000, 3000…と、自分で好きなだけ続けていくことが出来るので、子ども達は大好きです。(M. H)

巻き数字
(数教育)



*保護者の方に「お仕事」をご紹介する目的で作ったページです。「我が子はやっている、やっていない」のチェックに使ったり、「あなたもやりなさい」などは決して言わないで下さい。モンテッソーリ教育では、基本的に子どもたちは、自分でお仕事を選びます。私たちは1人ひとりの“自己選択”の力の育ちを大切にしています。時期が来たら必ず自然と興味を持ちますし、基礎から積んでいくことが大事です。そして、1人ひとり個性がありペースが違うのです。私たちは、観察を通して適切な誘いかけをしていきます。どうか、子どもたちのモンテッソーリのお部屋をそっと覗かせてもらおうようなつもりでお読みください。